



contents

表紙◎
[Linnaeus' travel books]
with permission of the
Linnean Society of
London

2 技術に会う 16
デジタルカメラは夜のためである 中野純

4 特集
心地よい家電

— 快・楽・美の創造術

6 家電製品と日常

— 心地よさはどこにあるのか 柏木博

10 快・楽・美のしつらい

— 暮らしに溶け込む生活家電

10 家電新時代

— 見えない「心地よさ」を形にする 石井吉太郎

12 洗濯乾燥機

14 冷蔵庫

16 ルームエアコン

17 省エネ、暖房性能ナンバードワンをベースに
グローバルな展開をめざす 長澤喜好

18 掃除機

19 気持ちいいテクノロジー革命 石田秀輝

22 永瀬唯のサイエンス・パースペクティブ 16
MRI「磁気共鳴撮像装置」
— 医療の先端をサポートする画像診断システム

28 新学入門 4
無駄学 西成浩裕

30 HITACHI FILE
日本の優れた水処理技術を結集し、世界へ

32 日立紀行 8
風力発電

34 ダントツさんが行く！
多機能空気清浄機 15

35 技術の日立・今昔 12
記録メディア

デジカメは夜のためにある

写真と文

● 中野純

「わー、なんだこれ、カッコいい！」

21世紀になったばかりのある夜のこと。品川神社境内に聳える品川富士に登って、眼前に広がる大したことない夜景を、なんの気なしにコンパクトデジカメで撮ってみた。ストロボは使わず、あとの設定はデジカメにまかせてなんとなく撮ったからどうせ失敗写真だろう……と思っただが、直後にデジカメの液晶モニターに現れた画像は、手ブレもなく、なんだかやたらカッコいいではないか。

そしてその、デジカメが捉えた夜の品川を見たあと、改めて眼前の夜の品川を眺めてみたら、さつきよりずっとカッコよく見える。デジカメに夜の風景の素晴らしさを教えてもらった気分だ。もしかしてデジカメは、夜に強いのか。そしてこの先、デジカメは、人の心を夜の暗闇に向かわせるかもしれない。そんな予感を覚えたのだった。

あれから8年。デジカメはますます進化し、夜の撮影は驚くほどカンタンになった。街の夜景は三脚がなくてもちゃんと撮れるし、ほとんど真っ暗な山中でも、ISO感度を上げたりなんだりが、実に手軽にできる。

なにより、夜の撮影は昼間より格段に失敗率が高いので、撮ったその場で画像を確認して何度でも撮り直せるのは大きい。撮影後の修整も容易で、なにも写らなかったと思った写真

をちょっといじっただけで、闇の中からヒメボタルの幽かな光や夜の虹が浮かび上がったりする。まったくデジカメは、夜のためにこそある。デジカメにとって昼間の撮影なんて、副業みたいなものだと思っ。

一昔前はストロボなしで夜を撮るなんて、素人の領域ではなかったが、最近は、ブログなどでも夜の風景写真をよく目にする。夜の写真は陰影が深いので、だれが撮っても、なんでも結構カッコよく撮れてしまっ。

ブログに夜の写真が増えたのは、夜の散歩を楽しむ人が増えたからでもある。照明を極度に抑えた店もすく増え、夜の暗さをじっくり愛でようという風潮が、おとしくらいから急に強まった感がある。

それは、地球温暖化への危機意識の急速な高まりで、省エネと暗闇が結びついたからだと思っ。電気をムダに使わずに夜本来の暗さを楽しむことは、地球環境にとってもいいことだ。戦後の日本は、明るい未来を夢見て高度成長したが、その結果、夜が度を超して明るくなってしまった。未来はもうちょっと暗いほうがいい。明るい未来から暗い未来へ。デジカメを伴って夜を歩くと、暗いけれど豊かな、未だ見ぬ新しい世界が、暗闇にチラチラと垣間見えて、ワクワクしてくる。今夜も書を捨てて、デジカメをもって外へ出よう。

なかの・じゅん……1961年東京生まれ。体験を作り体験を書く「体験作家」。「金比羅山ムーンライズ・ウォーク」「本所七つ闇」などのイベントを企画・案内する「闇歩きガイド」。私設図書館「少女まんが館」の世話人でもある。主著に『東京「夜」散歩』（講談社）、『闇を歩く』（光文社 知恵の森文庫）、『図解「月夜」の楽しみかた24』（講談社+α文庫）、『夜旅』（河出書房新社）、『東京サイハテ観光』（交通新聞社）など。右ページ写真は、房総・館山の布良浜へ通じる道。中野純ホームページ「さるすべり家頁」<http://www.sarusuberi.co.jp/>